

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19102002	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	戦（いくさ）に関わる文字文化と文物の総合的研究	研究代表者 （所属・職）	遠山 一郎（愛知県立大学・日本文化学部・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>（意見等）</p> <p>当初の研究計画に従って、順調に研究とその成果の発表が行われていると判断できる。戦（とくに東アジア地域における）を軸として、文化との多面的な関わり方を明らかにしようとする所期の目標は、学術論文や共著書の刊行によって果たされつつあり、公開講演会やシンポジウムの開催によってその成果を批判的に共有する姿勢も認められる。とりわけ平曲のDVDの作成は、資料保存上重要であるだけでなく、学術研究の意義を一般の人々にアピールするのにも役立つであろう。</p> <p>今後の研究については、これまでの成果を踏まえて多少の微調整は必要になるかもしれないが、この研究グループにより十分に成し遂げることを期待したい。</p>	

【平成24年度 検証結果】

検証結果	<p>所属大学教員が数多く参加可能な大テーマを掲げた総合研究であるゆえ、本研究内の4つの課題それぞれの細目については、諸外国、特にヨーロッパとの比較の視点が不十分であったり、「戦」の文化・文物（ことに文学）への影響を論じる視点が素朴な反映論に終始しがちであるなど気になる点も散見されるが、総じて、当初の研究計画に従って研究は順調に進捗し、論文、編著、共著、講演会及び研究集会など成果発表も着実にバランスよく行われたと評価できる。平曲のDVD映像記録、実演、本文及び索引が一画面で見られるようなデータ化は、興味深い先進的試みであるし、蓬左文庫（名古屋市）との連携も評価に値する。ただし、これら成果の一般への公開方法については検討が必要であろう。</p>
A	